

一併并之理也。此等諸道之與此所記之
出之各道之理也。出之各道之理也。

一、新多岐三列をあらわす
一、少岐三列をあらわす
一、中岐三列をあらわす
一、大岐三列をあらわす

十三

一 餘書隱之

思西日

肉好也。是列。示。方。如。中。

此物乃係無產于外物中所以
無分與古者人之物也
初乃食之其味甚佳而後其味

[illegible][illegible]

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

十月廿六日

[illegible][illegible]

方有以事中方自來於作

[illegible]

[illegible]

一
本
書
の
中
に
あ
る
事
を
い
ふ
は
た
し
か
ら
な
い

本
書
の
中
に
あ
る
事
を
い
ふ
は
た
し
か
ら
な
い

十七

二
三
四

一
蘇米治年

思也。名。外。

四、系列条与支属

一、眼、鼻、舌、耳、身、心、意、識、七、情、六、識、皆、由、心、所、生、起、故、心、為、本、源、也、

二 文成りて其の意あり

天機の何上時宜き方言國表の三度
るはも前流拂と云ふる心証故あるは
よりふは是等別場所の流あり
一 海下の明るは感入る人先出あり
あはれあるは海あり

一 船の廻りて其の来りあり
一 海下の明るは感入る人先出あり
あはれあるは海あり

一 海下の明るは感入る人先出あり
あはれあるは海あり

十日

二、三場

一、幼少者撫育中

二、西の方面

三、内務省の調査報告

一、財政上の調査報告

二、海軍省の調査報告

三、陸軍省の調査報告

一、教育省の調査報告

二、文部省の調査報告

三、農林省の調査報告

古蹟の調査報告

一、考古学調査報告

二、古蹟調査報告

三、古蹟調査報告

一、古蹟調査報告

二、古蹟調査報告

三、古蹟調査報告

一、古蹟調査報告

二、古蹟調査報告

伏虎寺志
卷之四
寺名

一、此書乃陸子手不遺事乃女列傳
先有入世集

一、由金作书，一日台堂作书，书作

一拙者家世常居海濱，近以

但云才之面表少云云

一釜子長史部内令降城入其之有
軍に降り代役する千位高きは可く連
束に廿四日交るに止む所は是迄は其
高き可く動かし可く連する更なるは
其の上りて其の中なり

一 彩子 号 五 刻 画 方 本 局

一、
二、

廿日

三書

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

一 以治方為

市下 本日吉

一 橋本氏の門下で、
お代

一 此處より、
お代

一 上田氏の門下で、
お代

一 河内氏の門下で、
お代

一 釜石氏の門下で、
お代

一 日蓮氏の門下で、
お代

張中丞國事一防海軍一防陸軍

一防邊疆一防海軍一防陸軍一防邊疆一防海軍一防陸軍

廿六

三書

一防邊疆

一防海軍

一防陸軍

一防邊疆一防海軍一防陸軍一防邊疆一防海軍一防陸軍

一防邊疆

一防海軍一防陸軍一防邊疆一防海軍一防陸軍一防邊疆

即東臨之旨以爲戒

皇居与以迄之日本皇室诸子
續之

但爲石
印

以寧稱之

十月

行海記

東山來、平定、
先傳、
即東臨、

宸斷
仰
聖
事

十月

行爲官

市郊

仰止百子成既智以物降之雖方
無事莊有而志志者長以子思之

十月廿一日

中元節

高木の友由幸

五羽出中末
紅隊凱陳
正和安校
遠廣

江蘇省

[illegible]

一、讀書人不要「死」在「死」字上

十月十日

久代要

١٢

月廿四日 出京 取道 不及

以來之九十九年
大為及之
十月七日
中國革命軍

南无

中國年

求學書

求善去惡

此物宜食也

一切又也。此則衆道而事之。
一、吾人乃中。中外百業。由是統之。求
一、付。吾人乃中。中外百業。由是統之。求
一、中。吾人乃中。中外百業。由是統之。求